



## ANALISIS KESALAHAN PENGGUNAAN *KEIYOUSHI* PADA KARANGAN MAHASISWA SEMESTER III PRODI PENDIDIKAN BAHASA JEPANG UNIVERSITAS NEGERI SEMARANG

(スマラン国立大学の日本語教育プログラムの学生の作文に形容詞を使用することの誤用分析)

Rista Mega Meyana <sup>✉</sup>

Jurusan Bahasa dan Sastra Asing, Fakultas Bahasa dan Seni, Universitas Negeri Semarang, Indonesia

### Info Artikel

*Sejarah Artikel:*

Diterima April 2013  
Disetujui April 2013  
Dipublikasikan April 2013

*Keywords:*

*penggunaan keiyoushi*

### Abstrak

Dalam mempelajari bahasa asing sering terjadi kesalahan-kesalahan di dalam penmggunaannya, seperti halnya ketika sedang mempelajari bahasa Jepang. Kesalahan dapat terjadi dalam berbagai aspek misalnya membaca, mendengarkan, berbicara maupun menulis. Di dalam bahasa Jepang terdapat sepuluh kelas kata yang memungkinkan terjadinya kesalahan di dalam penggunaannya. Misalnya pada kelas kata kata sifat. Berdasarkan pengalaman pribadi penulis, selama mempelajari bahasa Jepang, keiyoushi muncul dalam pembelajaran dasar baik wacana maupun pada saat membuat karangan. Pembelajaran kata sifat ini cukup rumit. Hal ini kadang menimbulkan kesalahan-kesalahan di dalam penggunaannya baik dalam hal pengubahan maupun penggabungannya. Adanya kesulitan di dalam membuat pengubahan maupun penggabungan keiyoushi menjadi hambatan dalam penguasaan bahasa Jepang yang baik dan benar. Penggunaan keiyoushi pada semester III sudah diajarkan lebih komplek. Oleh karena itu, penulis tertarik meneliti tentang analisis kesalahan penggunaan keiyoushi pada karangan mahasiswa semester III prodi pendidikan bahasa Jepang Universitas Negeri Semarang.

© 2013 Universitas Negeri Semarang

<sup>✉</sup> Alamat korespondensi:

Gedung B4 Lantai 1 FBS Unnes  
Kampus Sekaran, Gunungpati, Semarang, 50229  
E-mail: pbjunes@gmail.com

ISSN 2252-6250

## 問題の背景

言語を学習するのは難しいもので、とくに、日本語を学習することである。日本語の学習者にとって日本語を勉強しているとき、よく間違っている。その間違いは様々なことに発生する。たとえば聞くこと、話すこと、読むこと、書くことである。日本語には使用するのに間違えることを発生されるのは可能だと思う。品詞部類が10であるのは、形容詞の使用する間違いの一つの例である。

形容詞とは品詞が形態または何か状態を明らかにして、述語になり、活用になる。

(Kitahara dalam Sutedi).

私の経験によって、日本語を勉強しているとき、形容詞が出ているのは、たとえば文章と作文に出てくる。その形容詞を学習するのは難しいだと思う。そのことは使用することを発生される。それは変化することと結合することである。その難しさは日本語の能力に妨げになる。スマラン国立大学の日本語教育プログラムの二年生の学生に形容詞の使用するのにバリエーションのことであり、「たとえば沖縄は美しい海で有名である」。その背景を基づいて、スマラン国立大学の日本語教育プログラムの学生の作文に形容詞を使用することの誤用分析を研究する。

## 基礎的な理論

### a. 品詞

日本語に[kelas kata]というのは品詞である。Shooji (2003:116)によると品詞は一つ一つの言葉を、働きや使い方によって分類したものである。

### b. 形容詞

形容詞とは品詞が形態または何か状態を明らかにして、述語になり、活用になる。

(Kitahara dalam Sutedi).

### c. 形容詞を使用すること

形容詞の使用するのは形容詞を変化することと形容詞を結合することである。その

形容詞変化することと形容詞を結合することは2つある。それはイ形容詞とナ形容詞である。

### d. 誤用分析

審判教育辞典 (2005:169)によると、誤用研究は学習者がおこす誤りについて、どのような誤りが存在するのか、どうして誤りをおこすのか、どのように訂正すればよいかなどをかんがえ、日本語教育、日本語学習などに役立つとする原因である。

### e. 作文を書くことの間違い

作文を書く時には間違いことをよく発生する。作文を間違いをするのは様々であり、日本語の能力も足りなく、注目も足りなく、学習者の集中も足りないからである。それで、作文を書くのに様々なタイプの間違うを出ている。

Sutedi (2008:3)によると、作文の能力に見れば、教室にはタイプの学習者が4つある。それは：a) Aタイプの学習者、b) Bタイプの学習者、c) Cタイプの学習者、d) Dタイプの学習者である。

#### 1. Aタイプの学習者

学習者は作文が書ける、「インドネシア語で書く」。十分な日本語の能力もあり、それで日本語で作文をするのは間違いするのは少ない傾向である。

#### 2. Bタイプの学習者

学習者はインドネシア語で作文が書くことができる。十分な日本語の能力が足りない。それで、日本語に訳するいいアイデアを注ぎ入れない。

#### 3. Cタイプの学習者

学習者は作文が書くことができないが、日本語の文を書く能力ができる。

#### 4. Dタイプの学習者

学習者は作文が書くことができなく。十分な日本語の能力も足りない。

## 研究の方法

本研究にデスクリプト・定性分析を使う。その定性分析はスマラン国立大学の日本語教育プ

プログラムの学生の作文に形容詞を使用することを分析する。

その研究にデータの出所はスマラン国立大学の日本語教育プログラムの二年生の学生が書いた作文である。データの対象語は学生の作文にある形容詞文のことである。使われる研究品はドキュメンテーションの学生の作文である。

## 研究の結果

35人の学生の作文には596データを見つける。そのデータは形容詞をふくめている文と形容詞文をふくめていない文に分けられる。形容詞をふくめている分文は204データがある。形容詞をふくめていない文は392データがある。

形容詞をふくめていない文は目標研究のことではないので分析しない。

形容詞をふくめている文は204データから109データに間違っている。そのデータは2つに分けられる。それは、形容詞にある間違データと形容詞の以外である。形容詞にある間違データが95である。形容詞の以外に間違データが14である。

### a. 形容詞に間違えること

形容詞にある間違データが95である。形容詞にある間違データが3つに分けられる。それは、言葉に間違えることで、文法に間違えることで、意味に間違えることである。そのデータは18データが言葉に間違えることである。76データが文法に間違えることである。1データが意味に間違えることである。

### b. 形容詞の以外に間違えること

形容詞の以外に間違えるデータは14データである。そのデータは2データが文法に間違えることで、11データが言葉に間違えることで、1データが助詞に間違えることである。

## 結論

研究の結果から次の結論が得られる。

- a. 学生に形容詞を使用する間違いのは形容詞と名詞の結合することである。
- b. 形容詞を使用する間違いの要因は、学生が使用するのとは分からないからであり、それは、形容詞と名詞を結合することである。

## DAFTAR PUSTAKA

- Arikunto, Suharsimi. 2010. *Metode Penelitian Suatu Pendekatan Praktik*. Jakarta: Rineka Cipta
- Kaori, Shimada. (\_\_\_\_). *Nihongo Gakushuusha No Goyou Bunseki* [online] (<http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/G0000006y2j2/file/18338/20110328161801/C060034000009.pdf>)
- Khanif, Muhammad. 2010. *Cara Mudah Menguasai Bahasa Jepang*. Yogyakarta: Indonesia Tera
- Nihongo Kyouiku Gakkai. 2005. *Shinpan Nihongo Kyouiku Jiten*. Tokyo: Taishukan Shoten
- Puspita, Karina. 2005. *Analisis Kesalahan Penggunaan Gramatikal I-keiyoushi dan Na-keiyoushi*. Skripsi. Universitas Pendidikan Indonesia
- Rohadi. 2009. *Bentuk Ungkapan dari Kata Sifat dan Kata Kerja*. Jakarta: Kesaint Blanc
- Semita, Muryani. 2009. *Mari Belajar Kata Sifat Bahasa Jepang*. Jogjakarta: Diva Press
- Sutedi, Dedi. 2008. *Upaya Untuk Mengatasi Masalah dalam Pembelajaran Sakubun*. Makalah [online] ([http://file.upi.edu/Direktori/FPBS/JUR\\_PEND\\_BAHASA\\_JEPANG/196605071996011-DEDI/SUTEDI/Artikel-Makalah\(PDF\)/13\\_Temu\\_Alumni\\_IT.pdf](http://file.upi.edu/Direktori/FPBS/JUR_PEND_BAHASA_JEPANG/196605071996011-DEDI/SUTEDI/Artikel-Makalah(PDF)/13_Temu_Alumni_IT.pdf))
- Sutedi, Dedi. 2009. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora
- Sudjianto & Ahmad Dahigi. 2007. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Bekasi Timur: KBI
- Sugiyono. 2009. *Metode Penelitian Pendidikan (Pendekatan Kuantitatif, Kualitatif dan R & D)*. Bandung: Humaniora

